

私の写生地

千葉 土田 恒夫

私は現在、千葉県の船橋市に住んでいますが、東京で生まれ育ったので、絵のテーマは自然と東京の街中に目が向いてしまいます。

思い起こしてみると、子供の頃からの東京の変貌振りは著しく、建物にしても終戦後の粗末な木造住宅から、現在の密集した高層ビル、マンションになり、道路も高速道路が街中走り、日本の隅々まで直結する様になった。

人々の仕事や生活を取り巻く環境も大きく様変わりし、車、パソコン、テレビ、携帯電話、その他様々な家庭電化製品、

機械類に囲まれて暮らしている。

しかし、この様な便利さを追い求めているうちに、知らず知らずのうちに何か失っているものがある様な気がしてならない。生活のテンポについても昔よりスピードが年々速くなり、気持は忙しなくなっているし、人間関係も間に器械が介在し、微妙な影響、変化が出てきているのではと危惧する。

そんな都会の人々でも夕暮れどき仕事場から解放された時などに人間味漂うほつとした表情を垣間見せる。

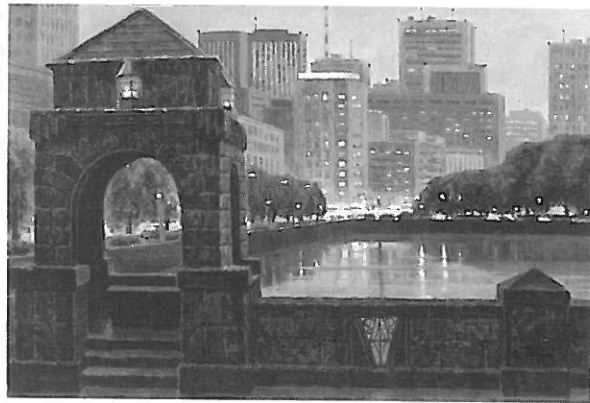
昼間はガラスとコンクリートの無機質な魂も、夕ぐれ時になると徐々に照明や看板が色づき空気が和らぐ。往来する人もいろいろいるで、急いで家族のもとへ足を向ける人、仲間と談笑する為喫茶店や飲み屋へ繰り出す人、買物に行く人、テートを楽しむ若い男女などなど。

都会の一隅にたまたま時を同じくしての通りすがりの知らない人同士の一場面、それぞれがそれぞれの人生を背負い生きている。そういう都会人の息遣い、温もり、哀歎、気配といったものが表現できたらと思う。

上野、浅草、有楽町、東京、日本橋、新宿など人の流れのある駅、商店街、街角などが取材対象になるのですが、取材にでかけるといふより、日常街中を歩いている時に、偶然はつとずる場面、光景に出会えた時に創作意欲をそそられる。



第59回示現会展(2006) 示現会賞 日本橋



第62回示現会展(2009) お濠端風景



上野 不忍池



JR上野駅の不忍口を出ると聚楽（現在工事中）と映画館が目の前にあるが、この絵（写真上）はその前からアメヤ横丁の入口を描いたものです。
 アメヤ横丁は一年中店頭での売り声が響き、下町らしい賑わいをみせている。
 又、不忍池が近いところにあり都会のオアシスの役割を果たしている。
 不忍池は池の真ん中に弁天様があり、夏には弁天様の緑青の甍を背景に蓮の花がピンクの花を咲かせ、冬には枯れた蓮の葉と屈折した茎が水面に水墨画の様な影を落とし、四季様々な風情をみせる。

上野駅の浅草口を出た広場はタクシー・バスの乗り場で賑わい、その上に広場を擁した横断陸橋が昭和通りまで跨いでいる。昭和通り越しに駅近辺のビルや広場をながめると今の時代のターミナルの感がある。



ふたの水 ニコライ

この絵（写真中）はJR有楽町駅のお濠側に隣接するビツクカメラの三角形のビル（以前のそうデパート）の前に立ちJRのガードを描いたものです。交差点の反対側からビツクカメラの建物を見ても面白いし、交差点の周りにはレンガ造りのトンネル道路もあり変化に富んでいる。
 この高架線路の壁面のレンガには凹凸

のデザインがあり外灯や窓の形も面白く線路に沿って新橋の方へ延びている。年月の経過がレンガに味わいを与えている。
 又有楽町駅から銀座四丁目の交差点の方へ足を向けるとソニービル、阪急デパート、不二家に囲まれた交差点に三角屋根の交番がある。この交番も都会の風景の中に溶けこんでいる面白い、ポイントになっている。



雨の街

